

研究成果要旨

研究テーマ
赤十字病院の小児在宅医療移行支援に関連する多職種との連携の現状と課題
研究組織
研究（代表）者：看護学部・小児看護学教授・大西文子 共同研究者：同・小児看護学准教授・岡田摩理、同・小児看護学助教・遠藤幸子、同・小児看護学助手・鳥居賀乃子
キーワード
重症児、小児在宅療養、移行支援、看護師、多職種連携

研究報告

（１）研究の背景・目的

継続して医療的ケアを必要とする重症児が医療機関への転院や在宅移行する際、重症児と家族が安心して療養生活を送るために多職種との連携の現状と課題に関する検討である。

（２）研究方法

データ収集期間は 2016 年 4 月～2017 年 11 月。質的記述的研究の面接によるインタビュー調査であり、研究参加者は赤十字病院の小児病棟看護係長 5 名であった。本研究は日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号:2822）。分析は、研究目的に沿って、研究参加者の語りにおける意味ある文脈についてコード化し、サブカテゴリー、カテゴリーから統合分析を行った。

（３）研究結果

研究参加者は、男性 1 名・女性 4 名、平均年齢：45.4 歳、小児病棟経験平均月数：15.8 ヶ月、インタビュー平均時間：52 分 0 秒。統合分析では、21 のコアカテゴリー、54 のカテゴリーを抽出した。分析結果は、①病棟内で行われていること、②病棟外に向けて行われていること、③他職種連携、④支援における困難感と課題、⑤きょうだいや家族に対する子育て支援、に分類した。①は【在宅移行に向けた家族への医療的ケアの指導】【個性や成長に合わせた根拠に基づく指導】【重症児の母親の思いの傾聴】【退院に向けた計画的な準備】【退院前の外出・外泊の支援】、②は【病棟看護師による退院調整】【関連部署による情報交換および研修】、③は【院内の他職種との連携】【院内の看護職との連携】【院外の手職種との連携】【院外の手護職との連携】、④は【対象理解の困難さに起因する課題】【医療職の手護に手する認識の未熟さに起因する課題】【支援に手する組織や社会の態勢的な課題】、⑤は【必要時のきょうだい支援】【預かり入院やレスパイト入院および入

所の調整】【家族の要望や家庭環境を配慮した準備】【母親やきょうだいの生活を安定させる為の社会資源の模索】【家族の生活に配慮した治療方針調整の支援】【母親の思いに傾聴】【重症児と暮らすきょうだいの複雑な思いに配慮できる母親への支援】であった。

(4) 考察・(5) 結論

現在の実践看護では、在宅移行支援への看護教育体制があり、退院を視野に入れ、多職種連携のもと家族への医療的ケアの指導や外出・外泊での支援、重症児と母親への寄り添う看護が行われていた。しかし、看護師が在宅療養がイメージできないことや家族の治療方針受け入れへの苦悩及び小児在宅医療の態勢問題等の困難な課題がある中、看護師の奮闘する姿勢があった。

(6) 謝辞

なお、この研究に際し、平成 28・29 年度の「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」の研究助成を受け、赤十字病院の小児在宅医療移行支援に関連する多職種との連携の現状と課題を明らかにできましたので、ここに深く感謝申し上げます。

(7) 引用文献

1) 大西文子、神道那実、増尾美帆：社会復帰過程における慢性疾患をもつ子どもと家族の抱える問題と専門職種の支援— 保護者のインタビューを中心として —、日本小児看護学会誌、第 23 巻、第 3 号、26-33、2014.

2) 厚生労働省(2003)：医療提供体制の改革のビジョン—「医療提供体制の改革に関する検討チーム」—, <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/04/h0430-3a.html>。

3) 田村正徳（研究代表者）：厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「重症新生児に対する療養・療育環境の拡充に関する総合研究」平成 20-22 年度総合研究報告書。2011.

4) 及川郁子：【座談会】小児在宅医療の普及に向けて今こそ医療のパラダイムシフトを、週刊医学界新聞、医学書院、第 2945 号 2011 年 09 月 19 日。

5) 田川紀美子、種吉啓子、鈴木真知子：医療的ケアを必要とする子どもの在宅支援移管する文献検討、日本赤十字広島看護大学、第 3 巻、61-68、2003.

6) 松崎奈々子、下山京子、青柳千春、酒光恵子、金泉志保美、阿久澤智恵子：医療的ケアを必要とする小児を対象とした訪問看護に関する研究動向と今後の課題、日本小児看護学会誌、第 23 巻第 2 号、48-56、2014.

7) 松崎奈々子、阿久澤智恵子、久保仁美、今井 彩、青柳千春、下山京子、佐光恵子、金泉志保美、小児の訪問看護の際に訪問看護師が行った他機関・多職種との連携、日本小児看護学誌、VOL. 25 31-37、2016.

8) 日本医療保育学、医療保育の理念、<http://www.iryuhoiku.jp/original2.html>

9) 2017(平成 29)年 6 月「子育て安心プラン」設備及び運営に関する基準 (2018. 8. 17) <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Sou>

muka/0000199267. pd